

2022年6月24日

東急建設株主総会 質問

横浜市に計画している、上郷開発計画について質問します。

- 1 明らかな人口減少下に、10万㎡の緑地を潰して、新たな宅地造成を行う必要性がありますか？
- 2 前期決算は赤字でしたが、上郷開発事業も赤字事業なので凍結すべきではありませんか？
- 3 開発地には神奈川県唯一の製鉄遺跡がありますが、これを破壊するには舞岡上郷線の下に仮調査で埋め戻された遺跡も本調査をする必要があり、莫大な費用が掛かります。それでも開発を決行しますか？
- 4 埋立て地は、毎時6トンもの湧水がある湿地帯であり特殊な地盤改良工事が必要で、莫大な費用が掛かります。それでも開発を決行しますか？
- 5 上郷開発は、昨年多数の死者を出した熱海土砂災害地と同様で、傾斜地に産業廃棄物が埋まっています。災害が起きれば、熱海以上の災害となり、会社存亡の危機になります。それでも開発を決行しますか？
- 6 産業廃棄物を除去するには、莫大な費用が掛かり赤字は更に増えます。それでも開発を決行しますか？
- 7 開発事業計画書は、2019年7月3日に横浜市へ提出されましたが、未だに承認されていません。いろいろな問題があり3年以上も承認されない開発は凍結すべきではありませんか？
- 8 上郷開発を凍結し、SDGsの実践として自然の森を保存し、東急建設の株を上げる計画に変更しませんか？

2022年6月24日

東急建設株主総会 回答

- 1 上郷開発は、環境アセス、都計審、都市計画決定が通っており合理性を勘案して決定した、質問事項にそれぞれに対応していく。
- 2 埋蔵文化財の調査は、道路を止めるか否か等、横浜市と協議中。
- 3 上郷開発は、熱海と違い谷埋め型“くぼ地盛り土”なので土砂流出の危険は低い、全くリスクがないという事ではない。横浜市からいろいろの条件が出ており施工方法など横浜市と協議し、万全の計画と施工を行う。

(注：“くぼ地の盛り土”とは、危険性を隠す為に東急がアセスに申請した不正資料、実際は熱海同様の“傾斜地盛り土”)
- 4 既存の廃棄物撤去は、どうするかまだ決まっておらず、横浜市と協議中。
- 5 工事許可に時間がかかっているが、熱海土石流災害もあり、施工方法についてベストは何か慎重に検討を行っている。
- 6 上郷開発は、環境にやさしい開発という事で進めており、計画を変更する予定はない。

(回答者：寺田光宏代表取締役社長、増田知也専務執行役員)